2019年度 大谷大学 第4回「学修行動調査」結果報告書

【実施目的】 学牛の学修経験の把握や、単位認定や進級・卒業判定とは別に、大学および学生本人がそれらの学修

経験を通してどのような力が身についているかを把握し、今後の学修や教育改善に役立てる。

【実施日程】 2019年12月19日(木)~2020年2月3日(月)

【対 象】 学部 第2学年・文学部 第4学年

【回 収 数】 第2学年 565名/839名(67.3%)、第4学年 455名/701名(64.5%)、(第3学年 4名)

※2019年度より、Microsoft Formsを利用してWebで実施した。

くI. 学習状況について>

①1週間を通しての通学日数、大学で過ごす時間(設問Ⅱ-3、Ⅱ-4)

1週間を通しての通学日数の平均は3.8日(第2学年は4.7日、第4学年は2.6日)。ベネッセが全国の大学1~4年生を対象として4年に一度 実施している「大学生の学習・生活実態調査報告書」(以下、「全国調査」と言う。)の2012年度版によると、平均は4.4日であった。第2学年の平均通学日数は、全国平均を少し上回っている。第4学年の通学日数が少ない背景として、すでに卒業に必要な単位を修得済み、就職活動等の影響が考えられる。経年比較においては、「5日」の割合が2018年度の27.9%から41.5%に増加している。

大学で過ごす時間について、第2学年は「21~30時間」(36.1%)をピークとした山なりに、第4学年は「1~5時間」(51%)がピークとなっており、滞在時間が長くなるほど割合は減少している。2018年度と比較すると、「5時間未満」、「21~30時間」以上の割合が増加しているが、「6~10時間」・「11~20時間」の割合が減少している。

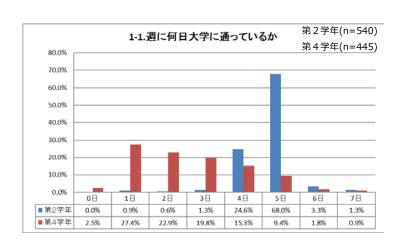
全体を通して、通学日数は増加しているが、大学で過ごす時間は、長い学生と短い学生の差が拡がっている。

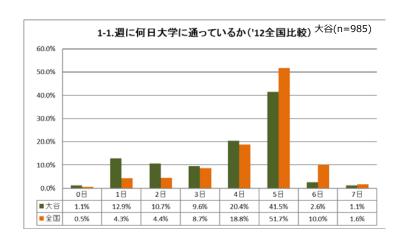
<2019年度調査>

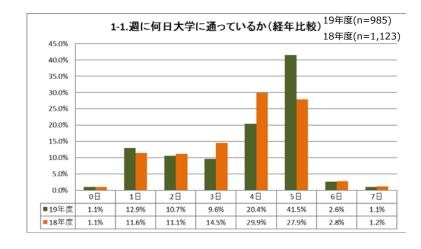
	全体	第2学年	第4学年
平均	3.8	4.7	2.6
中央値	4	5	2
最頻値	5	5	1
範囲	7	6	7
最少	0	1	0
最大	7	7	7
標本数	985	540	445

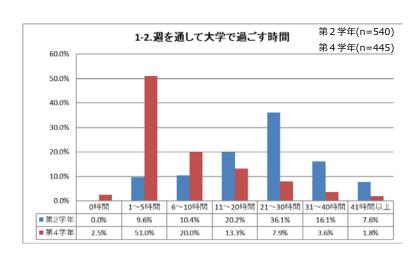
<2018年度調査>

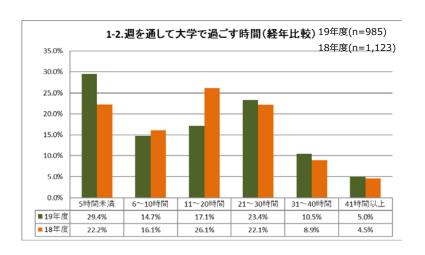
	全体	第2学年	第4学年
平均	3.6	4.4	2.5
中央値	4	4	2
最頻値	4	4	1
範囲	7	7	7
最少	0	0	0
最大	7	7	7
標本数	1123	671	452

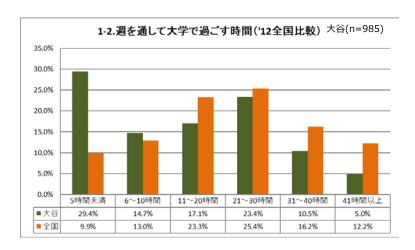












②授業出席時間・出席状況、学習時間(設問Ⅱ-5、Ⅱ-6)

授業出席時間について、第2学年では7割弱の学生は、1週間に11時間以上授業に出席している。一方、第4学年では、約8割の学生の授業時間は5時間以下となっている。第4学年になると授業出席時間が激減していることから8割程度の学生は、すでに卒業に必要な単位をほぼ修得済みであることが伺える。第2・4学年ともに授業の出席率は高い。いずれも全体のほぼ9割の学生が7割以上、ほぼ5割の学生が9割以上授業に出席していると回答している。

次に、授業以外の学習時間をみてみる。予復習・課題をする時間は、「1時間未満」が第2学年で25.4%、第4学年で39.6%となっている。「2時間未満」が占める割合は、第2学年で63.4%、第4学年で75.1%となっている。授業以外の自主的な勉強の時間は、「1時間未満」が第2学年で53%、第4学年で49%となっている。「2時間未満」が占める割合は、第2学年で83.7%、第4学年で79.3%となっている。

全国調査の結果と比較すると、予復習や課題をする時間は、3時間以上と3時間未満で区切ると、割合はほぼ同じであった。授業以外の自主的な学習時間は、3時間以上の割合が若干低い結果となった。

なお、学習時間に関する**経年比較においては、「1時間未満」の割合に減少が見られた。**

